

第 科

5

大正三年

大正三年貳月 貳日接受

113 浄書 校正 原

大正 三年 二月 二 日 起 同 年 月 三 日 附

機密送第一 號

主管 政務 長

小池政務局長

大正三年貳月 参日 参

井上 横濱正金銀行取取
横濱正金銀行 漢治平公司 新借款
契約書並附屬書 漢口總領
事 送附 附屬書 二 件 有 送 附 中 心
業 及 以 後 概 不 也

外務省

大正參年貳月 拾日接受

同
三年
二月
十五日
附
日起草

別紙

第一課

主佳

抄本

警政局長

1

大正參年貳月拾

機密送第 四 號

物學上凡

高楊溪漢本代經

漢治萍菊新造款契和昔月

送付件

不

20

署之漢治萍公自特借款契即告棄
 及以送付署之吏公以收別錢契
 約書並附屬書之通決定之備事
 者乃之夫：調印了之此并書官
 中審以金之：如自一極及以送付
 署之吏公以收別錢契
 約書並附屬書之通決定之備事
 者乃之夫：調印了之此并書官

文書課長

秘

大正三年二月十日

漢冶萍公司ハ我方ト間ニ数次ノ借款

契約ニ依リ、~~本~~ ~~特~~ 極メテ ~~貸~~ 貸付タル

関係ヲ有シ居ル慶最ニ明治四十四年五

月一日日本製鉄所及横濱正金銀行

ト同公司ト間ニ締結シ見タル一千二百

万圓ノ一借款契約アリ右ハ公司ノ工場

拡張費及事業資金ニ充クルヲ目的ト

シタルモノナルモ右金額中二百萬圓丈ノ明

治四十五年二月十一日ヲ以テ公司側ニ交付

シタル額トナリ居タル慶合般同公司鑑銘

爐新設工事並漢陽鉄廠其他ノ拡張

張改良工事ニ充當セシカガ更メテ右一千二

百萬圓借款ノ残額九百萬圓シ公司ニ融

通スルヲ成リ且ト全時ニ全公司ニ付テ

負担スル短期高利ノ旧債皆換資金トシ

外務省

テ別ニ金六百万圓ヲ貸付クルコトニ決シ製鉄
所及西金銀行ト公司ト間ニ客年十二月
二日ヲ以テ右兩借款契約ノ調印ヲ了シ之
ト共ニ右兩契約ニ附帶セル下別契約ノ成立
ヲ見ルニ至レリ右兩借款契約及別契約
条項ニ主ナルモノ左ノ如シ

一、兩借款契約ノ要

(一) 貸付金ハ日本製鉄所、公司ヨリ購入ス
外務省

ル鉱石及銑鉄代金ヲ以テ返済ス

(二) 期限四十ヶ年

(三) 利息ハ第六年目迄ハ七分其後ハ最
低年六分トシ市場ノ情況ニ應ジテ協定
ス

(四) 公司カ現在所有シ右兩借款契約ニ
依リ添加スル不動産不動産一切ノ財
産及将来是等ノ財産ニ附屬シテ其

一部ヲ構成スル財産ヲ以テ兩借款ノ共通
担保トス

(五) 現在他ノ債務ノ担保タル公司ノ財産ハ兩
借款ノ共通二省抵當タルハ是等他ノ
債務ノ返済終ニ其担保権消滅シタル
井ハ右等財産ハ當然兩借款ノ爲ニ共
通ニ一省抵當タルモノトス

(六) 製鉄所ニ於テ公司ヨリ購入セル鉄石及鉄
外務省

鉄ノ代金ハ公司ノ勘定トシテ製鉄所ハ
全部之ヲ西金銀行ニ交付スルニ右代
金ニシテ銀行ノ公司ニ對スル新借諸貸
金ノ元利支払ニ不足ナル場合ニハ公司
ハ別ニ現金ヲ以テ之カ支拂ヲ補足ス
此公司カ支那國以外ノ銀行又ハ資本家
ヨリ資金ノ融通ヲ得ントスル井ハ先ツ西
金銀行ニ協賛ス

ハ公司ハ支那政府ヨリ現金ニ至内ニ於テ得タル支那金自身ノ資金
ヲ低利且ニ担保ニテ貸與ヲ受ケタル場合ニハ右資金ヲ以テ本借款
全部償還ニ充ツルヲ得

二別契約ノ分

(一) 同ハ向四十年内ヲ限リ已存契約以外ニ

一等磁石一ヶ五百万匁及銑鉄八百万匁以

内ヲ製鉄所ニ賣渡スルヲ承諾ス

(二) 同ハ製鉄所ノ選擇ニ係ル日本人最

高顧問技師一名及五金銀行ノ選擇

ニ係ル日本人會計顧問一名ヲ僱聘ス

而シテ右最高顧問技師及會計顧問職務

外務省

規程モ客年十二月十五日ヲ以テ制定シテ

顧問技師ニハ工學博士大島道太郎會計

顧問ニ池田茂年ヲ選入キ其ノ就任

セリ

大正三年二月中旬ノ調査

大正四年五月廿七日ノ株主總會ニ於テ孫宝琦

董事ニ選舉セリ其ノ董事會長トシテ盛宣懷副

會長トナル

會計顧問
現在
盛宣懷
大郎

前記
本館員、公同、西顧、同上、間ニ締結セラル
契約書、規程、本館員、年俸、貳万円
期間満了年、漢口又ハ漢陽ニ常駐シ、後
年俸、一万五千円、期間満了年、上ハ、常駐ス
而シテ、本館員、其、公同、ヨリ
本館員、相当ノ住宅ヲ給セラル、医薬及医療
又無償ニ、公同、ヨリ負担ス、尚右、本館員、契
約、本館員、何レカ、ヨリ終了セラル、希望
ヲ期間満了、三月前、相手方ニ豫告ス
アラ、ハ、引渡シ、尚、年、間、續、續、在、モ、ト、ス
外、省

附屬書類添附

大正參年貳月拾八日發

駐政務

第二課

大正三年二月十七

横濱正金銀行

預金井上準之助

秘受1842號

外務省机井店子成

拜啓 貴方上海支店より右記ノ件ニ関シ別紙
寫し通り電報省之より傳り内覧ス該具

二月十六日發上海支店來電

漢冶萍公司株主臨時總會議案ノ件

上海支店來電寫

二月 十七日發

漢冶萍公司三月七日株主臨時總會開

會^{廣告}セリ重ナル議案

第一借款契約報告

第二官邊よりノ債務總テ支那政府名

義株券ニ振替而シテ官商合弁ニ

変更スルコト

右不取敢電報改定右ノ関ニ感宣懷説明

要求中 小田切萬壽之助一電報済

後以ハ作修習

極秘

政機密送第24号
大正三年二月十八日

外務大臣男爵牧野伸顯

大藏大臣男爵高橋是清殿

寧湘鐵道問題ニ關スル件

本件ニ關スル帝國政府ノ提議ニ對シ客年十一月十一日附覽書ヲ以テ英國政府ヨリ回答ノ旨ハ同月十八日附政機密送第85號ヲ以テ及通牒置タル處右ニ依リ英國政府ニ於テ恰モ日本カ英國ノ利害關係ヲ侵蝕セムトスルモノナルカ如ク思惟シ楊子江流域ニ於ケル勢力範圍ノ擁

護ヲ圖ラムトスルモノト察セラレタルヲ以テ斯ル微妙ノ問題ニ付論議スルハ大局ノ為ニ得策ト認メ屬ト論議ノ結果同月廿四日在英井上大使ニ對シ前記ノ報告ヲ付シ大要左ノ通英國政府ニ申入ルヘキ旨電訓致ス

要ニ帝國政府カ寧湘問題ニ付英國政府ニ提議スルニ至リタルハ關係地ナリ於ケル日英ノ利益カ第三者ノ為ニ侵蝕セラレムトスルヲ防止スルノ自衛手段ニ外ナラス尤モ英國政府ハ我提議カ寧湘關係ニ言及シアル為或ハ不安ノ念ヲ起シタルヲラムモ帝國ハ敢テ右全線ニ指テ係メムトスルニアラスシテ唯多年本邦側ト密接ナル關係ヲ有スル南滿鐵道ト萍

郷地方トヲ連絡スヘキ南萍保ニ對シ借款
關係ヲ付ケムトスル勢ナラシメテ英國政府
ニ於テ我立場ヲ諒トシ何等異議ヲ唱ヘサ
ムコトヲ希望ス尙英國資本家中之ニ參加
ヲ欲スルモノアラハ本邦側ニ於テ固ヨリ之ト
協同スルコトヲ躊躇セサルナリ

井上大使ハ十一月二十七日以前に訓令ヲ以テ英
國政府當局者ニ申入レ其考量ヲ促シ置キタ
ル處十二月三十一日附覽書ヲ以テ英國政府ヨリ
本問題ニ關スル帝國政府ノ友好的精神ハ
之ヲ諒トスルモ英國政府ハ從來南滿洲ニ於テ
日本ノ地位ヲ尊重シ錦愛鉄道問題ハ英
國資本家ニ援助ヲ與ヘサリシコト茲ニ將來ニ於

テモ南滿洲ニ對シ容喙セサルノ方針ヲ恪守
スヘキコトヲ言明シ現下支那ニ於ケル各國ノ實
業的競争ノ激甚ナルニ顧ミ英國政府カ多
量特殊ノ利害關係ヲ有スル地域ニ於テ行動
ノ自由ヲ主張スルハ蓋シ當然ナルヘキヲ述ヘ日本カ
南滿洲ニ於テ英國人ノ企業ニ對シ便宜ヲ與
フルコトヲ承認スルニ於テハ寧湘鉄道問題ニ付
テモ日本ノ意見加ヒテ考量ヲ加フヘキ旨ヲ傳
述シ來リタルヲ以テ政府ニ於テ事態ノ重大
ナルニ鑒ミ慎重ヲ考慮シ遂ケテアリタルニ本月
七日在本邦英國大使來省本國政府ノ訓令
ニ依ル強シテ英國政府ハ今ヤ他必筋ノ競争
ニ對スル自衛的措置トシテ寧湘鉄道ニ對シ

連ニ支那側ト契約ヲ締結スヘキ旨英支組合
ニ訓令セサルヘカラサルノ時機ニ達シタリト認
ルヲ以テ帝國政府、固答ヲ俟タスレテ事ノ進
ヲ圖ルヘキ旨、通牒ヲ發シタリ事茲ニ立到
テハ本計劃ニ對スル英支ノ運動ヲ妨害シ
徐ニ我々張ノ貫徹ヲ圖ルハ外途ニテ
此際斯ル地方的阻礙ニ依リ英國ト相争フコト
ハ涉假ノ事係ヨリ顧慮ニ極メテ不得策ナル
コト申達ニ與テ義、自南滿洲ニ關スル特
殊ノ關係ハ飽達之ヲ主張スルト共ニ寧湘漢
ニ付テハ我々張ヲ撤回シ別ニ南支方面ニ於ケル
鐵道ニ對シ新ニ支那側ト交渉ヲ開キ右進
行上英支ヲ利用スルノ方策ヲ執ルコトニ決定シ

一昨十六日英國大使館ニ別件注文ノ如キ電
書ヲ送付シ其際南支鐵道ニ付交渉ヲ
始メ伴フ漏レ右ニ關シ英國政府ノ援助ヲ期
待スル旨申添置タル間右様ヨリ知悉成度
此段及内報也

寧湘鐵道問題ニ关シテ三月
二月十二日在本邦美國大使ニ送付
セル書翰譯文

帝國政府ハ最近美國政府ヨリ寧湘鐵道
問題ニ關シテ最近の通牒ニ接シタルヲ以テ
茲ニ右ノ通牒陳スルノ先容ヲ有ス
本鐵道ハ元來日支兩國政府間ノ直接商議ニ
繫リ其一部ナル南萍線ニ付テハ右商議
ツキ已ニ屢々日本ヨリ支那ニ交渉ヲ試ミタル
コトアリ然レトモ帝國政府ハ楊子江流域ニ於
ケル美國ノ重要ナル利害關係ニ顧ミ本件ニ付
美國政府ト所見ヲ交換スルコト然ルヘシト思料

レ同政府トノ間ニ隔意ナク協議ヲ遂ケ修局
帝國政府ハ必スレモ寧湘全線ニ指テ豫メント
スルモノニアラス唯タ南萍線迄ト萍鄉地方トヲ
聯絡スル南萍線ヲ以テ帝國關係ノモノトナスコ
トヲ得ハ満足スヘキコトヲ言明シ美國政府ノ友好
的考慮ヲ促シタル次第ナレ處同政府ニ於テ南
萍線ニ關スル我々主張ニ顧ミルコトナク寧湘鐵道
全線ニ關シ單獨支那ト交渉ヲナスノ意圖ナレ
旨斷定的ニ通牒セラルルニ至リタルハ帝國政府
ノ甚タ遺憾トスル所ナリ
英國政府ハ楊子江流域ニ於ケル英國ノ利害
關係ヲ以テ南滿洲ニ於ケル帝國ノ利害關係
係ト同一視セラルルカ如キモ寧湘ハ南滿洲ニ於

テ條約上該接壤地タル關係上發生セル政治
的經濟的利害一關係ヲ有シ而モ右ハ三回
ノ戰爭ニ依リ確立シタルモノナルコトハ英國政府
ノ夙ニ諒意セラルル通リ最近帝國政府カ英
國政府ニ向テ南滿洲ニ對スル日本國以一般ノ特
殊ノ感想ヲ考量ニ入レラレムコトヲ特ニ注意シタ
ルニ畢竟之ニ外ナラス後ニ英政府カ南滿洲
ニ於ケル現下ノ事態ヲ以テ支那ノ他地方ニ於ケ
ル事態ト同一視セラレムトスルハ同盟國タル關係
ニ顧ミ帝國政府ニ於テ詢ニ遺憾ニ堪ヘサル次
第ナリ

乍去帝國政府ハ寧湘漢道ノ如キ地方的問題
ニ對シ此上滿洲ヲ繼續スルコト日英兩國ノ一般
的關係上不利益ト思料スルヲ以テ茲ニ其ニ漢ヲ
撤回スヘキコトヲ言明スルト共ニ英國政府ニ於テモ
南滿漢道ト萍鄉鑛山ニ對スル帝國ノ利害關係
係ヲ顧慮シ寧湘漢道ト南滿漢道トノ聯絡
及萍鄉鑛山ヨリ據拠スル鑛物ノ運搬ニ關シ特
別ノ便宜ヲ與フルコトトシ本鐵道カ英國ノ資本
本ニ依リ敷設セラルルニ當リ日本トノ間ニ之カ為特
別ノ取極ヲナスヘキコトヲ豫約セラレムコトヲ切望ス

受03823號

館事領總本日口漢在

李公侯
大新者
老而新者
正生所
大正參年貳月廿日
館事

大正參年貳月拾八日接受

主政務司

第一課

淨書校正

公信第六

大正三年二月九日

在漢口

總領事 高橋新治

外務大臣男爵牧野伸顯 殿

大正三年二月四日附

漢公茅二六

送付

送付先山座公使

件名

萍鄉步鎮、閩漢冶萍公司江西民政長

說明件

文書課長

大正參年貳月拾九日接獲

大正參年貳月廿日

0251

漢第廿六号

大正三年二月四日

大正三年貳月 七日

在九江

外務書記室 八木元八

總領事代理 高橋新治殿

萍鄉炭鑛之關に漢治萍公司江西民政長之
説明一件

李烈鈞都督在江中江西當局者力萍鄉
炭鑛之對し或る利益を割受せし計画に種
々企畫を以て次第に備次及脚報告置候
後前當局者力萍鄉之派遣を以て其計画を
万が一經費を徒費せしむるに其計画を
業（漢治萍公司）の爲る鑛區鑛山採掘計画
（駁）駁し爲る大全の停止放棄せん、之を以て
處地方の政局漸く鎮んじたり又ハ萍鄉炭鑛
對る江西又一食糧の大動向出たり、其計
般民政長政務會議より本件を討議せし
中新聞記者あり又南昌實業促進會
（如）如く會議を開き萍鄉の經營に
乙ト相談する中力上海に於て江西公
會より漢治萍公司の書を送り利益分
を要求する趣を以て之に對し漢治萍公司
ハ相當の説明を與ふんと共に江西民政長に對し

在漢口日本總領事館

洋銀炭鑛、地江西北、鑛局地方、
 益捐、成助、又、鑛省、深、所、井、税、
 之、何、子、毛、自、義、務、ア、生、地、迄、所、在、困、
 日、即、リ、恩、サ、公、極、有、可、リ、極、以、予、
 負、債、ノ、抵、當、リ、サ、也、湖、南、ノ、半、ト、名、義、
 相、在、也、又、未、成、事、業、湖、北、ト、相、較、ブ、ハ、
 理、亦、更、リ、之、足、リ、サ、ル、也、時、之、陳、明、ス、台、端、ヲ、
 事、業、員、ニ、ヨ、リ、宣、布、シ、以、テ、誤、會、ヲ、解、チ、而、テ、予、
 終、リ、申、リ、息、メ、ス、事、ヲ、懇、懇、頓、ス、云、云、
 左、及、報、告、僞、也、

在漢口日本總領事館

附屬書類添附

大正參年貳月拾九日接受

駐政務局

第二課

大正三年二月十六日

横濱正金銀行

町田村上早一の



紙

外務省に於て

拜訪左記、仲二、横濱正金銀行支店宛別紙
寫一通、電報改定、同供、内覽、其、致、具

二月十六日横濱發

文部政府に對し各銀行より、76/50,000-1 發出

、仲

二月十八日付横濱支店
電報支店宛電信寫

二月十四日貴方電信（支那政府ニ對シ各銀行

26/500000 貸出ノ件）ニ對シ回答ス

26/500000 貸出ハ銀行通常業務トシ

テ各銀行ニ於テ取扱ヒタルモノト信ス

當時其儘ニ為シ置キタルニ貴電入手

北京ニ関合セ支那五國團體トシテ取

扱ヒタルモノナル旨回答有之左ハ今更如何

トモ難攻ニ付他團體異議無之云ハ

貴殿ニ於テモ追認相成ヌ様致度

治安

附屬書類添附

昭和1875

大正參年貳月拾九日接受
大正三年二月十九日

駐務局 第二課

上

横濱正金銀行

總支那人代理 武内金平

外務省 松井英四郎

拝啓 源治公海之日時時縁會、仲介
小田切所締役及上海支店、米電馬
為、保、乃、覽、
敬具

在北京小田切取締役来電写

二月十八日入連徑由發全日着

上海支店へ左ノ通り電報シタリ参考ノ為ノ通
知ス

工商部次官ノ話ニ據ルニ曩ニ漢冶萍公司ヨリ
官商合辦ヲ出願シ来リタルニ付目下工商部
財政部ハ右ニ對スル指令案協議中ナルカ右
合辦ハ從來漢冶萍公司カ地方中央政府ニ
對スル債務ヲ株券ニ振替ルコト又社長ハ株主
ヨリ選舉シ政府ノ承認ヲ受クルコト等ノ方法

ニ依リ之ヲ實行スル意向ナル由右ニ関シ公司ヨ
リ工商部ニ提出セシ願書寫取得ノ上送付
セヨ小田切



上海支店來電寫

二月十九日上海支店來電寫

十六日付省方電信より、通電、董事連名ヲ
以テ二月二日政府宛電信ニ據テ、六官商合辦ニ
非サレハ公司擴張不可能ナリト右ニ對シ政府ヨリ
返電責意、願會林主總會ヲ經テ上申セヨト
而シテ盛宣懷病氣ト稱シ面會不致、亥得共
聞、以テ所ニ據テ六官商ノ債務ハ、
省店擔保南京公債、
トテ株券ニ振替重役、年數政府ヨリ任命、且從

來ノ總支配人、外ニ政府側總支配人ヲ置キ必
要ノ場合ハ經費ヲ政府ヨリ補給スルコトヲ網
領トシテ盛宣懷、楊廷棟打合せノ上揚、北京
ニ歸レリト、コトハ公司政府、復電信文寫本
日便ヲ以テ發送、小田切一電報濟

大正三年二月廿日

法横濱正金銀行

外務省
芝罘支署

拜啟 漢沿路 臨時總會議案 閣下 件
付左ノ通り 上海支店 末電者 又 貴署
ヨリ 内覧 致具

上海支店末電 二月十九日 著

威宣懷、面會致去 大要昨ノ當方電
信ト大差ナリ 委細報便ニテ 採知可致

電信課長



大臣

九三一 暗

次官

牧野外務大臣

北京山座公使

政務

通商

人事

會計

文書

第一六二號

漢治萍公司ト横濱正金銀行ト、間ニ今回締結
シタル借款契約ニ對シ支那新庫ハ多ク反對ノ託
事ヲ掲ケ且湯化龍等、湖北出身者ハ熱心ナ
ル反對運動ヲ初メ既ニ大總統ニ建白書ヲ提出
シタル由ニ付支那官場、常トシテ何時如何ナル
手段ヲ以テ契約ヲ破棄ヲ試ミストモ限ラズ一旦
措置ヲ取リタル上ハ挽回方甚ク困難ニ付豫防的

并準

手般ヲ講セラレ度旨山田切ヨリ願出アリ本使
ニ於テモ尤モト認メ二月二十日附啓文ヲ以テ孫
寶琦ニ對シ今回ノ契約ハ漢治萍公司ニ取リテ
利益アルノミナラス日支實業聯絡ニモ大ナル関
係アルニ付漫リニ契約ヲ廢棄シ國際紛議ヲ醸
スル如キコト益々標即注意アリ度尚右ノ趣大
總統ニモ申入レラレ度旨申送り置ケリ

附屬書類添附

視受1457號

大正參年貳月廿參日接受
大正三年二月廿

駐政務局 第一課

横濱正金銀行

預前井上準之助

杉井外務省

豫教漢語部より官商合辦ノ紳士間ニ
上海支店及小田切所締結ノ別紙書一
通り電報改良間茲ニ供リ内覧ス
敬具

在北京小田切所締結電信

二月廿日發

上海支店へ左ノ通り電報シタリ

(二月廿日横濱正金上海支店宛電信全文)

(電文終り)

貴股王右ノ趣旨ノ旨ニ照シ北京ニ於テ
必要ノ手段ヲ取ラレタリ

二月廿日 横濱發上海支店宛電信

漢冶萍公司ヨリ北京政府へ願出タル官
商合辦ノ件ニ付貴殿ハ感宣懷ニ面
會中村長官及ニ拙者意見トシテ備
款契約顧問契約ノ締結ヲ終ヘ尚未
未タ十數日ノ出デサルニ此ノ如キ重大事
件ヲ會計顧問ニ相談セサルハ甚其意ヲ
得サル次第ナリ又政府筋ノ借入金ニ對シ
此際株券ノ渡ストハ何等ノ利益アリヤ
ノ解ニ若シハ所ニシテ是凌ラニ株主ノ種
類ヲ増加シ公司ノ經營ノレテ益々困難
ナラシムルニ止マリ容易ニ賛成シ難シ尚
又政府筋ニ交付シタル株ニ限リテ特權
ノ權利ヲ與ヘ政府ヲ多數ノ重役ヲ
選ビ又ハ政府側總支配人ヲ置クニトハ
公目將來ノ整理ノ金ヲ念頭ニ置カサ
ル處置ニテ過般ノ契約締結前ニ感
宣懷カ日本側ニ言明シタル所ト大ニ相
違アリテ容易ニ賛成シ難キ者ヲ中

波サレタニ尚又貴殿ハ右ト前後ニテ李
維格ニ面會ニ日本側ノ意見ニ付テ充分
利害ヲ説キ同氏ノ意見ヲ聞取リ報
告前之友

日本経済新聞

●漢冶萍借款成立

△日本の技師招聘
第一次借款以来の懸案たりし漢冶萍鐵廠

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の前途
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の前途
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△借款の内容

借款の内容は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の前途
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の前途
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の前途
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△借款の内容

借款の内容は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の前途
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の前途
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の前途
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

△漢冶萍の苦境
漢冶萍鐵廠は、自前年十二月五日

二十三日間の停業を遂げ、昨午に成立し

る手配とあり

電信課長

水川

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

九七〇
晴

上海
本署
大正三年二月廿五日
八二五
二五五

牧野外務大臣

有吉總領事

第九號

公使館第一八號（二月二十五日）

第一六六號

往電第一六二號、閣下二月二十三日本使
ハ張謇ニ會見シ漢冶萍公司新借款ニ
對シ近來支那側ニ現レタル反對意見
ニ付、悉一辯駁ヲ加ヘ此際該契約

我輩準

ノ破棄ヲ試ミ三月支那國際關係ノ糾
糾ノ末、不可ナリコトヲ諒ナタルニ張
漢冶萍公司カ日本國ヲ借款ヲ起スコ
トニハ主義、於テ異存ナキモ感宣懷ノ遺
リ方ハ非難ヲ免レサルコト等ヲ述ベタル
結局該契約ヲ維持スル積リナリト内
話セリ果シテ如何程迄信ヲ置ナクハハ
問題ナリトモ不取敢電報、委細郵便

附屬書類添附

秘受 1488 號

大正參年貳月廿四日接受

警務局

第一課

大正參年二月二十九日

横濱正金銀行

頭取 井上準之助

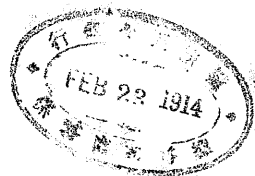
外務省杉井虎子殿

拜啟 左記ノ事項ニ関シ上海支店及北京小田
切取係後ノ別紙寫シ通リ電報首之為
茲ニ併リ内覧ス致具

一 上海支店來電 二月二十日發

漢口海關司官簡合亦ニ関スル件

下小田切取係來電 二月二十日發 茲ニ併リ
二月二十日北京國体ニ電報首



上海支店来電

二月二十三日

盛宣懷由會二十一日自貴方電信申越ノ
件傳言致去病氣中ニ付氣分宜敷時
充分答辭可致音中出相成案拙者
私見トシテ本件ハ日本側ニ全意出来ル
迄ハ會甚暫時進行中止總會延期ノ
必要モアルベシト注意シタルニ同人絶對ニ
反對致去李維格面會致去處同人ハ
總會召集廣告見ル迄何事協議ヲ受

ケサリシカ政府ヲ株主トスル理由ハ迄未
ノ如ク湖北省江西省反對スルトキ政府
ノ有力ナル保護受ケルトスルコト又大冶
地方官有礪山採掘ナレ得ル事トナル
ヘキヲ以テ此計劃賛成ナリ右李維
格意見ハ本月十日付當方書信參照
可ニ成盛宣懷説明ト同ニ尚李維格
ハ合辦條件ノ細目ニ関シ支那政府ト
協議ス（キ事柄ニ對シ蓋公司ハ充分日
本側ト協議ノ要ス（キモノナラント付言
致去小田切萬壽之助ハ電報済

附屬書類添附

秘受 1499 號

大正三年二月二十

管政務局

第一課

横濱正金銀行

前井上準之助

外務省
秘書長

拜啟漢治萍以日官商合辦之變更
件之関之因之日ト北京政府問注
復電信之付別紙寫し通上海支店
報告省之支店等 併り内覧ス
敬具

大正三年二月十八日上海支店書翰寫

漢治萍以日之関之件

来日三月七日開會ス總會之附紙ス中
重要問題ス同日日官商合辦之變
更ス事之関ト北京政府トノ電信注復
ノ大要ハ先刻ノ電報改定書要旨
右電信寫不取敬及リ送付ス敬具

北京國務院農商部鈞鑒

漢冶萍公司ノ製鉄業ハ軍國ノ需要
ト緊切ノ關係ヲ有シ官商共力之ヲ
維持スルニアササハ以テ擴充ヲ圖リ發達
シ講スルニ是ラス儼テ董事會ノ協儀
ヲ經公司ヲ以テ官商合辦トナサシ
トシ意見一致ニ付特ニ先ツ電請ス條ハ
楊君着京ノ上一切面陳ス（ク若シ允可
シ得ハ新聞紙ニ廣告シ特ニ株主大會
ヲ開キ果シテ多數ノ賛成アレハ即正式

批准シ申願處理ス（レ

二月二日

董事會

盛宣懷

王存善

沈敦和

朱佩珍

李經方

施則敬

周晉鑾

張武鏞

漢治萍公司董事會咸王沈朱李施
周張諸董事鑒
貴電拜悉漢治萍公司ハ吾國ノ施大
事業ニシテ關スル所至重ナリ該公司己ニ
擴充スルニ力ナクハ政府ハ實業ヲ維持
スル見地ヲ漠視スルヲ得ス只官商合
辦ノ一事全體ノ株主ト均シク密切ノ關
係アリ公司ハ株主大會ヲ開キ議決ノ上
正式ノ公文ヲ以テ呈請セハ更ニ考慮
賜ヘシ

二月五日

國務院

大正三年二月二十日

附屬書類添附

大正三年貳月廿五日接獲

駐露公署

第貳課

上海

之助

取

取

取

取

外務省長官府内

邦政府に件別紙寫し通り上海支店

ト電信送附改方片茲之通り内覧

教員

二十日發上海來電

威亞懷、傳言、極者、方面、交付方

閣下台令少件

二十日接獲

右之通り返電



上海支店来電

二月二十三日發

昨日口頭ヲ以テ申渡シタル貴方
電信ノ振替書面ニ認メ交付有
之度青威宣懷頻ニ請求被メ
要後ハ兄ニ角此際ハ口頭ニ止
メ置キテハ如何至急電訓ヲ乞フ

右ノ對ニ返電

廿四日横濱發

廿三日付貴方電信ニ對シ左ニ回答ス

本月二十日付貴方電信書面ニ認メ
交付スルニト敢テ差支多ク之ニ右書
面利用日本側ニ不利益ヲコトシ
計劃スルノ虞見様ナレハ交付差
控可也成

附屬書類添附

大正參年貳月廿七日接受

警務局

法

課

大正三年二月廿六日

横濱正金銀行

頭取 井上準之助

視受1536番

外務省杉井孝子殿

拜啟 漢治洋行司官商會辦ノ件ニ関シ 威重
懷若辦ノ件ニ付上海支店ノ別紙寫シ
通電帳者之天同茲ニ付リ内覽ス

敬具



上海支店来電

二月二十日
二十日

盛宣懷吐血ノ為ノ王商臣ヲ以テ答辯シタル大要左ニ

一、公司ハ公司利益保護政府ニ申請セシモ其方法條件ニ関シ未ダ商議シタル事無之
關係各方面ト商議スルニハ先ツ株主總會ニ於テ大綱ヲ決定セサル（カラス）而シテ何レコレヲモ公司現状持續ニ其性質ヲ變更セサルベシ交通部負債株券ト更

改スルコト昨年頭取ニモ内談シタル點ニ
レテ新ナル計劃ニハ無之顧問職務規程記載事項今後嚴守スベシ

二、公司事業三省ニ跨リ革命以來各方面
より多大ノ迫害ヲ受ケツアルガ是等防
止ニ公司利益保護スルニハ政府協力スル
ニ非サレハ不可能ニ者之又 Rail 販賣上
政府ト密接關係ヲ結フコト利益ナリ
三、顧問ニ関スル往復文書尊重スベシ
四、今ヤ湖北省及村ノ声大ニ政府ト協力
必要益々切ナリ

答辯終リ

依テ拙者試騷トシテ威宣懷ニ傳言セシメ
タル大要左ニ

方法條件總會後ニ至リ商議決定スヘト
云フモ豫メ是等ニ對シ充分利害研究シタ
ル上初メテ總會付議ス(キモノナルコトハ勿論
ニシテ既ニ二月十九日面談ノ節其腹案明
言セラレタルカ者ニ由テ見レハ明ニ官商合解
タリ故ニ此司組織ニ変更シ及ホス事ノ明
ニシテ北京筋トモ内談アリタルトコロナルニモ
拘ハラヌ末々商議シタル事無之迄テ商議
スヘト云フハ甚タ其意ヲ得ズ及ヒ總會

後ニ於テ商議スルコトハ無意味ナルヘシ
須ク事前ニ於テ重大ナル利益關係ヲ
有スル日本側ト其利害等ニ関シ充分協
議研究シタル上計劃實行ニ着手ス(キ
モノナルカ故ニ此点深ク注意ス(キ必要アル
ヘシ

小田切萬壽之助ハ電報ヲ

復

秘受1570第

大正參年貳月廿七日發受

郵政省

第一課

大正參年一月一日

法

横濱正金銀行

頭前井三郎

外務省松井芝吉宛

拜啟東三月七日附催、漢沙洋行司總會
附議事項、閣下別紙函、通、英、海、文
店支配人、報告有之、同、所、考、査、迄、供
御覽、仰、

敬具

大正三年四月廿四日

上海支店來報函

海濱洋行總會事項之関之件

来三月七日重要事項之附議之爲、臨時株主
總會、招集之方、廣告及漢字譯文、官報合
并、政府、諸願者ト、此亦電報去、十六、茲以各地海
字新聞、掲載有之、付、本店、於、直ニ、以テ
盛會長之氣、所謂重要事項、内容説明、求、同
時、水津副支那人、多願、代理、若、下、王閣臣、來
店、促、種、台、机、改、慶、同、人、盛會長、其、内容、之
語、一、可、得、店、其、以、云、云、言、之、得、之、

私言ト、盛會長、鵬腹案、之、語、之、據、上、總會、
附議之事項、第一、借款契約締結報告第二、
第三、債務金部、之、政府、若、義、株、者、振、之、
官報合并、改組之事、(去、十、六、附、要、電、各、者、)ト
リト

而、去、十、六、在、業、當、切、形、締、結、後、之、司、力、二、若、部、
提出之、官報合并願書、要、取、得、之、送、付、之、中、
聖、命、有、之、其、方、更、王、閣、臣、一、東、店、之、促、上、若、願、書、
寫、提、出、方、要、求、改、更、慶、同、人、二、若、部、之、司、問、之、書、
條、之、條、條、之、事、無、之、電、信、之、條、條、之、事、近、十、ト、
其、年、記、事、之、内、示、之、(若、願、書、十、八、日、不、可、能、及、所、送、

付置(一)主時、官舎、内容、内閣、内務、文部、
下、其、大、要、小、田、切、所、得、後、取、中、電、報、ト、大、同、小、異、ト、
リ、之、仍、ホ、為、念、左、通、リ、電、報、致、置、ス、

二月十六日、付、高、方、電、信、事、中、述、及、仲、董、事、連、名、
ヲ、以、テ、二、月、二、日、政、府、宛、電、報、ニ、據、六、官、舎、各、年、之、非、
廿、六、日、司、換、誤、不、可、能、ナ、ト、右、ノ、事、ニ、政、府、ヲ、返、電、
貴、高、領、會、株、主、總、会、ヲ、經、テ、上、申、セ、ヨ、ト、而、シ、テ、
咸、宜、懷、病、氣、ト、稱、案、面、會、不、致、支、得、共、聞、也、ト、
慶、ニ、據、六、官、通、債、務、六、百、四、拾、兩、弗、ト、高、方、據、
保、南、系、ノ、債、五、百、兩、弗、ト、株、券、ニ、振、替、之、重、役、
半、數、政、府、ヲ、任、命、且、從、來、ノ、總、之、配、人、外、ニ、

政府側總支配人ヲ置中必要、場合ハ經費
ヲ政府ヲ補給ス、ト、綱領トシ、咸宜懷、楊
廷棟打合セ、上、揚、其、高、ニ、歸、レ、リ、ト、コ、ト、二、司、政、府、
從、後、電、報、寫、本、ハ、便、ヲ、以、テ、致、送、ス、

右電報前、小田切所、得、後、取、中、電、信、事、中、述、及、仲、董、事、連、名、
注、ノ、中、北、中、ヲ、寫、ス、ル、事、司、又、二、番、部、間、電、信、
從、後、寫、ス、大、要、ヲ、摘、報、ス、ル、事、之、有、之、其、後、半、八、分、人、
ノ、内、話、ノ、係、ニ、官、舎、各、年、案、ノ、内、容、ニ、有、之、ハ、慶、咸、會、
長、ヲ、以、テ、高、方、ノ、文、問、答、セ、ル、事、ト、何、等、回、答、無、ク、
ヲ、以、テ、度、々、知、識、ス、ル、事、ト、昨、十、九、日、午、後、面、會、ス、
ト、相、成、主、付、西、副、之、配、人、ハ、田、中、書、記、ヲ、通、訳、ト、ス、

同件感宣懷、訪に會談せし力甚大要如左

官制各系案、對之、司經營上常、最之困
難、感之、湖世及江西兩省、反抗、其反抗ノ
度大、於之、世系政府、援助、乞に來りて、ア
之、援助、乞に義路一片、制電、乞に發、乞に更
效甚、少ク之、畢竟、乞に政府、直接、乞に對、之
利益關係、有、乞に少ナキ、致、乞に新、乞にハ、乞に司、政
府、利益關係、密接、乞に之、乞にハ、乞に政府、乞に司、
之、對、乞に充分、保護、乞に其、乞に之、乞に必要、乞にハ、乞に以、
豫、乞に之、業、政府、及、地方、政府、乞に債務、乞に一、括、乞に之、
世系政府、名義、株、券、之、振、賣、乞に株、主、乞に利益關係、乞に

有、乞に之、乞にト、考、案、乞に有、乞に之、乞に今、回、實現、乞にセ、乞に
ト、乞に之、乞にト、其、政府、名義、株、券、之、振、賣、乞にト、乞にト、
債務、乞に別、紙、寫、乞に、通、乞に之、乞に此、内、乞に之、乞に交通、銀行、乞に
十五、萬、兩、以下、乞に各項、乞に名義、債、權、者、乞に於、乞に之、果、乞に之、
政府、株、券、之、振、賣、乞に之、承諾、乞に之、乞に不明、乞に之、乞に之、又、財政、部
乞に債、票、五、百、萬、兩、乞に、為、店、乞に提、借、乞に之、乞に南京、乞に債
乞に之、乞に債、票、乞に對、乞に之、革命、動、亂、損害、賠償、
請求、乞に約、四、百、萬、兩、乞に相、殺、乞に之、請求、乞に約、百、萬、兩、乞に大
乞に振、賣、乞に此、賠償、請求、額、乞に政府、乞に於、乞に之、果、乞に之、承
認、乞に之、乞に乞に未、乞に到、乞に之、乞に乞に之、乞にト、乞に之、乞に希
望、乞に之、乞に乞に、角、現在、乞に之、總、株、數、乞にハ、乞に少、乞に之、株

数々政府所有トシテ而テ其株数ノ多少ニ比例
シ政府側ノ相対数ノ重役ノ任命セシメ總之
既ニノ實際局ニ當ル者ハ全權ノ方法ヨリ或ハ
政府側ノ任命セシメトシテヤモ雅計也等ノ
莫ハ全ク政府所有ノ株数ニ依リ決定スル考ナ
カ以上ノ考察ハ兩三日内ニ草案ヲ作成シ先ツ之ヲ
株主聯合会ニ諮リ而テ後株主總會ニ附議スル
考ナリ（右草案出来次第其要ヲ商店ニ差
出スヘキトノ約束致置ス）
ト以上ノ官第各条ニ對シテ國民腹案ノ大要ナカ此
外
地方ノ煩瑣ニ對シテモ之ヲ新ハ

一、今回大借款ノ風評立チテ前後並ニ政府ヨリハ
二、新部員揚廷棟（楊、盛武ノ旧關係ナリ由）
ヲ派シ此上ハ本側ノ借款ヲ為サレトキ各勸告アリ
ルニ付之對シテ借款契約ハ既ニ調印済ナル者ヲ為シ
置キ而テ右借款契約カ有教トナタル後其要
ヲ政府ニ提出シ置キ之ニ對シテ政府ハ何等異議
ヲ申越サズ唯新債中、顧問ノ推限大ニ過ク又ハ莫
ノミヲ指摘シ越シタルハ官第各条案ハ多年ノ
精願望ナリトモ時期到来ス今ニ迄發表スル機
ナリトモ既ニ大借款ニ就主トナル際好時機ナリト
信シ一蓋ニ或ハ今回ノ大借款ノ為ニ自身ノ財產

ハ新金、分離確保スルヲ得ルカ爲メナラン歟）爲
之ヲ實行セシトスルモノナリト

二右官署今年案ハ日本側ニ於テ之有利ナルモノト信ス
ルヲ以テ之ニ對シ及對^{アル}豫期^{アル}蓋シ今回ノ大
借款契約書中從來ノ契約以テ更ニ壹千五
百萬^ニ元、巨額礦石ノ増産^{スル}事ヲ約定セシカ大抵
地方ノ鉄礦ハ全部^ノ官署有^ニ属ス^ルニテ之ヲ
政府所^ニ有^スニシテ多ク有^ニ之^ル而^{シテ}期^ノ巨額ノ
優良礦石ノ契約^ノ増産^{スル}事ヲ約定セシカ大抵
増産^{スル}事ヲ約定セシカ大抵
増産^{スル}事ヲ約定セシカ大抵

去^レハ今回官商合弁ノ實行^ノ能^ハ右政府
所^ニ有^ス鉄礦ノ採掘（鉄礦ノ全部^ノ官署有^ニ属ス^ルニ
シテ之ヲ採掘^{スル}事ヲ約定セシカ大抵）
條件ト爲^ス考^スナリ^ト（云云）政府側從價
増産^{スル}事ヲ約定セシカ大抵

三云司目下ノ急務ハ經費ノ調達ト名^ニ政府ヲ株主ト
爲^ス、於^テハ或^ハ政府ノ於^テ此等資金調達^ノ便
利^ノヲ得^ル即^チ政府財政ノ現状^ノ、於^テハ後令
直接ノ保^ノ持^スナリ^ト云云軌條前借金ヲ株主ト
振替^ス爲^ス、於^テハ今後保^ノ持^スナリ^ト云云

從來、如何前借金より去るべきナリ現金を拂
り受くるより得るより以て経費を拂ふ元金を得
る便益あり（此真、固より明確な腹案ナキカ
如何に思ふ）

仍、古者権保南系に債、対して来々云司力政府
の型負、計、債務ナリト見ルを得、仮令其大部合
ハ革命損害要償ト相殺をトシテモ差額を株主
振替る事ハ空に債務を増加し、遂に云司ノ負担
多カラシムル儀、云司トシテハ甚に革命損害ナラセヤト
指摘するに對し、盛氏ハ此より革命損害を差
引、トハ差額ハ格別差額ナラヌト云々又政府持

株主等之官利等、之拂、トトナリ、中ナリ、向ニ
對して、政府の株主トナスト雖、此等司ハ純然たる革命
會社トシテ、繼續に政府ハ單純なる株主トシテ加入
セシメントスルより、土地、株主同様、所被る為ナリ
一カ、サ、シト云々又萬一顧問、於て官會合、并、
賛成、等、時ハ如何ト尋ね、云々本業、對して、及、對、
度、一、中、答、ナリ、此、業、政府、其、被、大、問題、（借款）ヲ
豫メ相談、為、サ、云々、調、即、より、ト、云、云、調、云、次第
ニ、本、問題、之、日本、云、云、言、ハ、ル、云、云、亦、同様、ナリ、ナリ
曖昧、其、外、的、辭、令、云、以、テ、質問、ノ、要、莫、云、外、之、亦
最後、本、問題、ノ、如、キ、云、司、ノ、堂、大、事件、之、関、レ、テ、ハ

顧問職務規程ニ照シ、亦依リ、斯ニ規程ナシト
スルニ、司銀行向迄来ノ関係ニ鑑ミ、豫メ商座ニ
一應ノ指図若クハ通告下テ可成ニ、下テスヤ
殊ニ顧問着任スル迄ハ、水津村ニ在テ顧問トシ、様
協議ヲ受クル用意ニ、在テヤト警告告々、與ヘ
タルニ、盛ハ之ニ對シ極メテ曖昧ニ、弁解ヲ為セシカ
（斯ルニ、其ノ數回ノ受クル「ナラハ病氣ヲ忍ビ、面會
スルニ、アツカリシニ、私語致シ、由」結局先方ノ不
意ナレ「ナラ」申述一重ニ付、此以上詰問ヲ試ミ、不
申病中特ニ面會談テ、タル「ナラ」謝意相合レ
申ス

以上記述スル如ク、盛氏ト面會ノ結果ハ、本件大
綱ニ於テ、互氏ノ内話ヲ所ト大差無之ヲ以テ、昨
夜「盛宣懷面會致シ、要大要妙、附書ナ
電報ト大差無之、妻細部報可致」ト、架電
致置ス

右ノ如ク報告ス 敬具

追テ、市信馬ハ、小田切所、緯段取、一併送付及

置ス

官款清單

財政部

公債

洋五百萬元

前部傳部

預收軌債

洋例銀貳百萬兩

四川鐵路司

預收軌債

全壹百萬兩

又

前部之息
季三月截止

漢口交通銀行

全壹萬六千四百八十五兩三錢

南京交通銀行

全四萬兩

大清銀行

全五萬兩

湖南官錢局

全四十六萬三千三百八十八兩

湖北官錢局

全三十五萬兩

湘錢局

全五萬一千三百二十兩

裕寧官錢局

洋例銀三萬八千五百九十兩

以上共計洋五百萬元洋例銀四萬六千五百九十兩

三十七萬一千一百三十三兩三錢

第一千二百八十三元

總計洋一千一百三十九萬一千二百八十三元

附
録
書
式
第
一
號

税受1600號

大正參年貳月廿八日接受

駐
政
務
局

第一課 係

大正三年二月廿七日

横濱正金銀行
頭取 井上準之助

小畑政房氏長

為該漢江洋公司新借款及引進動力機
別紙より直り少田切取後戻り電報
有る旨を以て此の如く承知

小田切取席浸未電

二月亦旨大連中港
同日横濱着

湖北省其他ノ漢冶萍公司新借款ニ対スル反
對運動ハ工商部ガ公司ノ無許可調印ニ対ス
ル不快並ビニ政府要路ト盛宣懷トノ間ニ蟠
レル感情ノ衝突ト相俟テ二月十七日工商部ヲ
ラレテ公司ニ対シ借款契約ヲ有効ト認ム
能ハズ暫ク実行ヲ見合セヨトノ指令ヲ下サレ
タルに至レリ(指令ハ二月廿六日政府公報発表)

去リガラ張謇ハ二月廿三日又那駐劄日本特
命全權公使ニ対シ借款契約ヲ維持スベシト
告ゲ又二月廿五日今後ニ対シ借款契約破棄ノ
意志無シモ公司ガ調印前許可ヲ得ザリシ
手續ノ不完全ハ極力追完セザルヲ得ザル
次第ナリ何レ右指令ニ対シ公司ヨリ回答ア
ルヤキニ自其後相當ノ處理ヲ為ス考ナリト言
明セリ形勢右ノ如キヲ以テ又那政府ガ借款
契約ノ承認ヲ為ス前ニアリ官商合弁
ノ問題ヲ提出スルコトハ徒ニ時局ヲ紛糾ナ

ラシメリキテ借款契約全済ニ影響ヲ及ボスノ
虞アル爲メニ當局者ニ對シ充分ニ官商合弁ノ
利害得失ヲ并明シ得ガルハ甚ダ遺憾ナリ
張幕ノ詠氣ヨリ察スルニ及ハ官商合弁実
行ト同時ニ借款契約承認全済ヲ收拾セトスル
ニアルモノ、如キモ真意ハ猶未ダ判然セズ今件
ニ關シテハ及那駐在日本特命全權公使本後
共ニ苦心中ニシテ及那政府ノ真意ヲ突出
ル爲メ目下各方面ニ手ヲ廻シツアリ現況
報告ニ上海支店ハ電報報濟

小田切富壽助

附
録
第
一
冊

第1601號

大正參年貳月廿八日接受

駐
政
務
局

第
一
課

大正三年二月廿七日

横濱正金銀所
頭取 升上 準一 助

松井外務次官殿

為該漢口洋行公司新借款及對通商之關
別底字之通商小切取停後より電報
有より右之通商小切取停後より電報

小田切取後未電

二月廿七日大連中電
同日横濱着

湖北省具他ノ漢冶萍公司新借款ニ対スル反
對運動ハ工商部ガ公司ノ無許可調印ニ対ス
ル不快並ビニ政府要路ト盛宣懷トノ間ニ端
ル感情ノ衝突ト相俟テ二月十七日工商部ヲ
ラシテ公司ニ対シ借款契約ヲ有効ト認ム
能ハズ暫ク実行ヲ見合セヨトノ指令ヲ下サシ
ムルニ至レリ(指令ハ二月廿六日政府公報発表)

去リガウ張謇ハ二月廿三日又那駐劄日本特
命全權公使ニ対シ借款契約ヲ維持スベシト
告ゲ又二月廿五日午後ニ対シ借款契約破棄ノ
意志無シモ公司ガ調印前許可ヲ得ザリシ
手續ノ不完全ハ極力追究セザルヲ得ガル
次第ナリ何レ右指令ニ対シ公司ヨリ回答ア
ルヤキニ付其後相當ノ處理ヲ為ス考ナリト言
明セリ形勢右ノ如キヲ以テ又那政府ガ借
款契約ノ承認ヲ為ス前ニアリ官商合弁
ノ問題ヲ提出スルコトハ徒ニ時日ヲ紛糾ナ

ラシメリキテ借款契約全済ニ影響ヲ及スノ
虞アル為ニ當局者ニ對シ充分ニ官商合弁ノ
利害得失ヲ示明シ得ガルハ甚ダ遺憾ナリ
張幕ノ詠氣ヨリ察スルニ及ハ官商合弁矣
行ト同時ニ借款契約承認全済ヲ収拾セシムル
ニアルモノ、如キモ真意ハ猶未ダ判然セズ今件
ニ關シテハ支那駐在日弁特命全權公使本後
共ニ苦心中ニシテ支那政府ノ真意ヲ究出ス
ル為メ目下各方面ニ手ヲ廻シツアリ現況
報告正上海支店ハ電報報濟

小田切富喜助

方西三 二月廿六

橫溪正金砂

陰陽 井上準之助

政略

地居造以

邦の右に件と冥と上河支店と雲根有
善哉供り高見文敬也

著者の意見は、

(二月廿七日)

一、漢以薛昌官滿令辭，說明書內卷二同頁。

一、 旧日之跡を 借款及 討指令に 著る 件

上海支店来電

二月廿七
廿八日

董事會より株主聯合會宛官商合辦
説明書本日送付し来り右ノ内容ハ
二月廿日付當方電信申述云分ト大ナ
ル差異ナキニ重役支配人カノコトニ関
シ明記無之官民同權利ノ下ニ合辦ト
シ政府より流通資本 ~~を~~ 補助シ受ケ云々トアリ而シテ二月十八日郵
送致ミ工商部公司法渡電信ト大
要ヲ記載シタルモノ右説明書李維格
王蘭臣ニ示シ受ケ一切承認不居
居云 小田切為高之助、電報通

上海支店来電

二月 廿七日 發
廿八日 着

政府ヨリ公司ニ對スル借款反對指令ニ對
シ如何回答ノ答ナルヤニ関シ威宣懷
意向同人重忠ノ為ニ聞取能ハス李
維格意見同令セヌ要指令公司ニ未
到着セズモ（威宣懷受取居ルヤニ難計）
威宣懷ハ公司ハ商事會社且鑛山既ニ
本邦ニ差入アルモノトノ論據ヲ以テ飽ク迄
モ借款有効主張スルコト勿論ナリ尚張
謨ハ肆意アル折柄借款攻撃ニ堪ヘズ

止ムシ得ズ指令發表シタルナラシモ借款
放棄不可能ノ事北京政府萬々承認
ノコトニ付駐支公使直接袁世凱ニ抗
議改良得ハ本件解決容易ナルべ
ト申シ居矣 小田切萬壽之助ハ電報



李時

紫系

電送第六十八號
三二共七十八

为时之几

電信課

外務省

0296

ルキニ秋ヲ終テ後日方那側
ヨリ為ナル申出テ極スルニ新
トニ契約ノ有効ノ之能スル
情ナル付考及テテ今ハ
上ニ考ノ方信ヲ以テ新上考支
那當局者ヲ説キ輕率ニ
動尚ニ案ヲ為スニ及スルカ
ルキトテテ地部先ヲ示ハ
外務省
カルル能ク改テシテ又
於テ國法ニ依テ官高会系ト
夫ノ意アル故ノ支那ヲ
ハ維新ノ事ニ由テ高条ト
ナシテカトテテテテ
今ニ至ルニ上海ニ射電
アリ